

九条ブログはらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 4 1



2007(平成19)年10月25日(木)発行

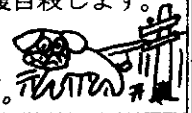
野菊(母葉)

＜1944(昭和19)年10月25日は、初の神風特別攻撃隊の突撃の日＞

太平洋戦争の戦況悪化を打開するため、米軍の機動部隊などに死を覚悟して体当たりする戦法の「神風特別攻撃隊」が編成されます。フィリピンで初めて実行されたのが「敷島隊」の5名で、その中に原町出身の『中野磐雄』がいます。中野はその戦死の時、19歳でした。発案者は大西滝次郎中将で、戦後に遺書を残し割腹自殺します。

このニュースは <http://sousou9.web.fc2.com> あるいは「相双地区九条の会フォーラム」

さらに「はらまち九条の会」で、1号から全号を見ることができます。



- 全国「九条の会」よびかけ人の一人、作家井上ひさし氏の講演会が開催されました。3年ごしの交渉の末、ようやく福島にお呼びすることができたそうで、会場は2千人をこえる満席となりました。
- 講演に先立ち、第1部①県九条の会代表の吉原泰助氏の挨拶、②絵本『乙女の像』白河高等女学校生の戦争体験記の朗読、③佐藤真子さんの「平和のメッセージ」弾き語り。次いで第2部井上ひさし講演は、啓蒙的内容ですがユーモア一杯で終始笑いの絶えない、楽しく、熱気で会場も一つになりました。「はらまち九条の会」のみなさんにも、ぜひ知っていただきたく文章化してみました。



福島県九条の会主催 秋の講演会

「井上ひさし氏講演・理想と現実、憲法」要旨

10月21日(日) 14:30~16:00 会場：福島県文化センター

少年時代の昭和21・22年ごろ、賑わっていた福島はあこがれの町でした！

※私は山形県の川西町出身です。戦後の昭和21・22年、この福島市の日東紡工場の野球チームが大変強く、阿部八郎のいう左腕の剛速球投手がいて、毎試合山形から見に来ていました。その頃福島市には周囲から物資が集まり駅前が賑わって、そこは黒山の人だかりの賑わいでした。野球少年の私は「福島は世界一の町」と思えたほどで、憧れの地でした。佐藤B作さんの故郷です。まあ、講演会でその土地のことをまず話すのが決まりですが。(笑)

四国では「自民党市会議員九条の会」

※さて九条の会ですが、会則も会長も会費もない会で、もう全国で八千をこえ、四国のある町では「自民党市会議員九条の会」ができました。これがすばらしく、右でも左でもこの憲法は大事だ、守ろうという方が増えていて心強いですが、国民投票法が成立していますし、油断はできません。

※人間の習性ですが、一気に何かに向かい、「バスに乗り遅れない」ようになるものです。朝青龍も亀田一家も、初めは賞賛していたのに、一端つまずくとみんな一斉にたたきはじめる。いつも誰かがバスを仕立てて、みんなで考えもなしにそれに乗り込み、そしてまた別のバスに一斉に乗り変えたりする。「憲法」についても同じで、どこをどう変えるのかも分からず、雰囲気や理由もなしに変えた方がいいなどと動き出す。ところが先日バスの運転手が突然下りちゃって、一時今バスは止まっていますが、またいつ動きだすかもしれません。まあ、私達はバスに乗らないで歩いて行こうとしています。この頃、グローバルゼーションとか、構造改革や郵政民営化など、聞こえのいい言葉だけで動き、言葉の下に隠されている意味や本当の意味を考えなければいけません。



日本国憲法が南極条約、南米の核兵器条約の成立、海底や宇宙の非核化に貢献

※1957(昭和32)年と翌年、国際地球観測年で世界の7か国で南極観測が行われました。日本も観測船「宗谷」で参加します。ところがその時、ソ連やアメリカが南極を舞台に軍事基地にするのではとお互いに疑ったり、イギリスも領土権を主張して、意見が対立する大騒動になり、南極観測も壊れそうになります。その時、日本は「日本国憲法」を差し出し、前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」のところをもめている会議で示し、それで各国がその「日本国憲法」前文に説得され、もう一度会議を最初に戻し、「南極条約」を成立させたのです。

※「南極条約」は、①どこの国の領地にも属さない、②軍事利用は一切しない、③科学の観測は各国自由に行う、という内容で1961年に批准され公布されます。ですから、「日本国憲法」が「南極条約」を作ったことになります。

※ご存知のように「日本国憲法」は、イギリスのマグナカルタやアメリカ独立宣言、フランス人権宣言など、貴族や王様や国家の圧力と闘った、血みどろになって歴史的に獲得した普遍的な自由や平等や願いが、すっかり入っているわけです。ですから「日本国憲法」はアメリカからの「押しつけ」などということではありません。

すぐれているものは世界中に広まる！

※日本の着物が背広へ発展し、日本の寿司が今や世界中で人気を集めているように、すばらしいものは「押しつけ」とは言わないのです。すばらしいものはひとりだけで世界中に広まっていくわけです。「日本国憲法」もまさにそうです。「南極条約」は「日本国憲法」をもとにできました。短い「南極条約」ですが、その中に「日本国憲法」の前文がそっくり織り込まれています。(裏面につづく)



(前面より、つづき)

※ 1968年に「ラテンアメリカ核兵器条約」ができ、中米と南米各国が「われわれは核兵器を作らないし、持たないし、持ち込まないし、使わせない」というのが条約の内容です。これにも「日本国憲法」のいろんな条文が入っていて、そして中南米諸国では、核保有国にその「ラテンアメリカ核兵器条約」の議定書を送りつけ、内容を承諾させていきます。ですから現在、中米と南米と南極では、核兵器を使わせないという体制が確立しています。

※ これを皮切りに、海底も非核兵器地帯になり、原子力潜水艦も核兵器を持ったら海底に行っちゃいけないし、ほとんどの国が「海底非核兵器条約」を結んでいます。また大気圏外の宇宙でも「宇宙条約」で、非核兵器地帯になっています。以前レーガン大統領がソ連に向けての核兵器の大ミサイル計画を打ち出しますが、この「宇宙条約」のおかげでそれは断念となりました。アメリカでさえこの条文を守りましたが、その条文もまた、「日本国憲法」の前文から採られているのです。

世界中の「核兵器非使用条約」に日本国憲法の条文が採用されている

※ 1985年に「ラトonga条約」というのが、南太平洋の十数か国の島の国々で結ばれます。その国々では昔、英仏により300回以上の核実験が行われました。安全なら自分の国でやればよいのに、危険だからかつて植民地だった国で核実験をやったわけです。それを防ぐために、代表がラトongaという町に集まり、南太平洋全域の国々がこの条約を結び、非核兵器地帯になりました。

※ さらに1995年「バンコク条約」ができ、東南アジアの国々もまた非核兵器地帯の宣言をしました。またアフリカも「ベリダ条約」で非核兵器地帯の宣言をしようとするが、南アフリカが世界6番目の核兵器保有国でした。しかし南アフリカの人々は議論し国民投票でその核兵器を廃絶してしまい、「ベリダ条約」に加入する。核武装を自ら解除したのは、世界で歴史上たった一つ、この南アフリカ国だけで、私は大変敬服しています。日本もこの国を真以て、地理的にもアメリカにくっつくことはできず、韓国をはじめ、すぐ隣の国々を大事にし仲良くするしかないので。

「テロとの戦い」は名目で、本当は石油の利権争いをしているアメリカ

※ 以上の話をまとめると、地球儀の赤道から南の地域はすべて、非核兵器地帯になったということです。つまり、地球の約6割の地域で核兵器は使えなくなりました。しかもそれらの条約に「日本国憲法」の条文が引用されています。我々が「憲法」を忘れていた間に、「憲法」は健気にも孝行息子のように、宇宙から海底まで地球の非核兵器地帯の拡大のために大変大きな仕事をしている。それを「時代に合わない」とか「古い」とか、いっしょに加減なことを言う人もいます。天皇家は古いからやめるのですか。教科書検閲は明治時代からやっつけていてもやめない。漢字だって古いけどやめるわけにはいかない。なぜ「憲法」だけ古いからやめようと言うのでしょうか。こんな馬鹿な価値判断はない。「憲法」はまだ若いし、こんなに大きな仕事をしているのに、こんなに日本人に冷たくされ嫌みを言われて、普通ならグレて家出してしまいますよ。(笑い)

※ こんなにすごい「憲法」をなぜ今捨てなきゃいけないのか。これが日本国の価値なのです。それをみすみす変えて、アメリカの三下奴(さんしたやっこ・最下位の者)に

なりたいたのか。そんなアメリカの石油の利権争いの中に、日本はわざわざ入っていつているのです。

※ 北半球で唯一非核兵器地帯なのがモンゴルです。実は韓国、北朝鮮、モンゴル、日本で、北太平洋非核兵器地帯を作る構想があったが、最後に残ったのがモンゴルです。そのモンゴル出身の朝青龍はやっぱり偉いのです。(笑い)

世界に広がる「無防備都市宣言」国際法で守ってもらうのです!

※ もう一つ、「無防備都市宣言」という動きがあります。これは国際法で認められていることで、①その町には戦闘員がいない、②その町には固定された兵舎や高射砲陣地がない、③そこに住んでいる人は戦う意志がない、④そこに住んでいる人は特定の勢力を助けることもしない、という4つの条件がそろえば、「無防備都市宣言」が成立し、国際法上その都市を攻撃することはできなくなります。そのいい例が、第2次世界大戦中のパリ、ローマ、マニラです。ナチスドイツがパリに進出した時、パリ市民は無防備で迎え、そして裏でレジスタンス運動を行います。ローマも古代遺跡を守ることができます。マニラの場合は日本軍が無防備地区というのを知らなくて徹底的に攻撃してしまい、国際法違反として戦後の東京裁判で裁かれます。これからは国際的な約束事は重要視されます。

※ 今日本で「無防備地域宣言」をやろうとしている都市が20ほどあり、自衛隊の基地のある北海道が一番多い。神奈川県横須賀市の周辺の都市でも「無防備都市宣言」をやろうとし、また世界各地で今、すごい勢いで「無防備都市宣言」ができています。もう地球の半分以上、海底も宇宙も南極も北極でも、もう核兵器の使えない地域になっていますが、そうならない所でも次々「無防備都市宣言」ができています。これが増えれば、他国のことを考えないで自分達の石油や軍事の利害ばかりを考えている馬鹿な人々や国家、戦争で儲ける上層部が見えてきます。

※ イラクには40の民間軍事会社が入り、アメリカ軍の食事も給水も下で支えて、戦争がないと生きていけない会社です。その最大のハリバートンという巨大な会社の社長が、なんとアメリカのチェイニー副大統領です。だからアメリカは常に戦争を起こさないといけないシステムになっていて、それに日本がくっついているのはおかしいのです。

※ その意味でカナダは常にアメリカの政策とは違った賢明な道を歩んでいると思います。中国との国交も地雷禁止条約もカナダが始め、そんな生き方もあります。日本は第2次世界大戦で54か国もの国と戦うが、中立国が10か国あり、その活躍も顕著だった。「日本国憲法」は中立国の立場にあたり、その精神で自衛隊は国際救助隊にした方がいいし、日本で治療すれば必ず直るといって医学立国、医学先進国もいい。憲法に基づいて医療機関、国際機関などをすべてもってあげれば、攻撃なんかできなくなります。

「憲法」や「9条」のすばらしさをもう一度見直しましょう!

※ とにかく、「憲法」をもう一度見直しましょう。「憲法」を守るのではなく、新しい価値を創らないといけない。一番大事な人類が生き延びるために知恵を出し合う時です。福島県全体が「無防備地域宣言」をするのもいいですね。身近にある「憲法」や、そばにいても気づかずにいる旦那さんや奥さんのすばらしさを見直しましょう!(笑い)

(文責・はらまち九条の会事務局山崎)

口とにかく、ユーモアに溢れ、会場は笑いの絶えない、楽しい講演会でした。カセットテープで聞き直しても、抱腹絶倒、何度も吹き出してしまいます! **テープ貸し出しは事務局へ(TEL0244-22-8631)**